

意識変革を促す学校図書館 ～明星学園図書館の場合～

講師 明星高等学校・中学校
司書教諭 大橋 和子

はじめに

学校図書館は教育機関のひとつです。各図書館は独自の手法で運営されていますが、各学校の建学の精神および教育方針を視野に入れた活動が必要です。有効に機能するためには全職員の理解、協力が欠かせません。活動体として図書館からの働きかけをすることも大事です。

また生徒に対しては、「知る自由」を保障することが、信頼関係を築く上でとても重要となります。みんなで図書館を創っていくために大切なことは何か、絶えず意識変革が求められます。図書館としてどのようなサポートができるかを模索していきたいと思います。

1. 学校紹介 ・・・マリア会教育の特徴
カトリック教育修道会・マリア会が明治31年（1898年）に創立した中高一貫の男子校。特にキリストが人々に示した理想的な人間像を、生徒一人ひとりの中に実現することを教育目標とする。
2. 理想の学校図書館経営とは ・・・学校図書館の役割
学校図書館は本来、学校全体の教育を支える役目を負っている。故に、それぞれの学校の経営方針や教育方針が、日頃の図書館運営に深く関わってくる。
また学校の中の図書館として、さまざまな機能を充実させていくことが、いま求められている。そして、その働きは教育活動全般にわたるものである。
3. 独自性を探る ・・・年間計画表を作成する
それぞれの学校の図書館の独自性とは何かを考えてみる。どのような図書館運営、図書館活動をしたいのかを明確にする。その上で、図書館の年間計画や運営計画表に反映させる。
4. 図書館は生きている ・・・この本をリクエストします
本校では1988年からリクエスト制度を導入。基本的人権のひとつ「知る自由」を保障していく姿勢こそ、今の教育の中で最も大切なことではないかと考える。「図書館の自由」に基づいたリクエスト・サービスは、貸出を伸ばす手段や方法論ではなく、教育の本質と深く関わっていることに気づく。
5. 魅力的な学校図書館って何？ ・・・学校図書館が機能するには
1989年に全国私学教育研究集会・大阪大会が開催された。このとき「魅力ある学校図書館を探ってみようではありませんか」と、大阪府下の私学全体に呼びかけ、レポート作成を依頼。そして三つの学校が実践発表をするに至る。

6. サービスはサービスを呼ぶ …… コンピューター導入へ発展
リクエスト・サービスの導入は、図書館にも生徒にも大きな変化をもたらした。すでに手作業での限界を感じていたところ、次のサービスのコンピューター導入へ発展した。そのことにより、利用者との信頼関係が深まり、レファレンスも活発になった。
7. 新しい図書館のイメージ …… どのようなコンセプトで創るか
1998年に創立100周年を迎えるにあたり、新校舎建築のため図書館も移動。管理棟3階と4階のツーフLOORになる。思考錯誤の末、3階をアカデミックフロア、4階をアメニティフロアと名付ける。全く新しいコンセプトでスタートする。
8. 心柱となるものは何か? …… 真理はわれらを自由にする
東京スカイツリーの構造の強さ“心柱”にある。では図書館ではどうだろう?“核”となるものを考える。本校の図書館のモットーを聖書の言葉から決定する。「VERITAS LIBERABIT VOS 真理はわれらを自由にする」
9. メッセージを発信する。 …… タイミングをはかりながら
図書館からの情報発信をどのタイミングで、またどのような形でしていくかは、利用者の反応を見ながら決めていく。また、生徒だけではなく、教職員に向けた情報発信も必要である。
10. あなたの夢を育ててください …… 一冊の本との出会い
図書館で見つけた「一冊の本」との出会いで、進路を決める生徒がいる。本が与える影響力の大きさを実感する。

おわりに

学校図書館だからできること

個々それぞれの「個の教育」を支えていく基盤となるのが学校図書館である。知と心を育てることは「学びの力」を育むことにつながる。読書環境を整え、多様な読書活動を展開することが必要である。日々さまざまな生徒との関わりの中で、絶えず私たちの側の意識変革が求められている。いつも多角的な視点を持ち、発想の転換と柔軟性が必要であるといえる。

以上